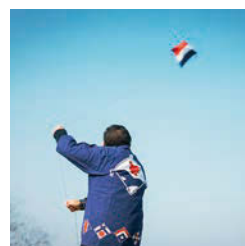
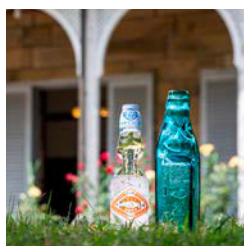
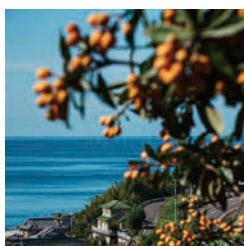
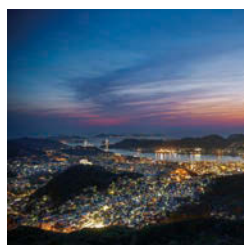
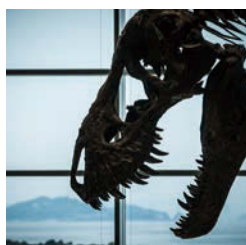
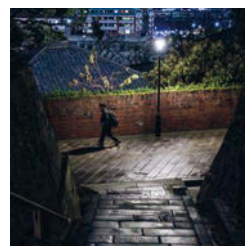


Nagasaki Wonder!

長崎のふつうは世間のふしぎ。



暮らしのそばに、ほら世界。



長崎市には、

海外との交流で生まれた

独自の文化や

習慣をはじめとする、

市民にとっては普通でも市外の人から見れば不思議な

見どころがたくさんあります。

そんな、長崎ならではの魅力を知ってほしくて

1冊の写真集にまとめました。

Nagasaki
長崎のふつうは●
●世間のふしぎ。
Wonder!



ド・ロ壁といいます。 泥壁ではありません。

長崎市の外海（そとめ）地区。地元の石と土を使ったこの素朴な壁は「ド・ロ壁」と呼ばれています。その名の由来は、フランス人のマルク・マリー・ド・ロ神父。1868（慶応4）年に来日、西彼杵（にしそのぎ）半島を訪れます。そこで彼が出会ったのは、多くの潜伏キリシタン。この地の人びとを救うのは、信仰と生活基盤の整備だ。と彼は、教育、福祉、医療、そして土木まで、多彩な分野で手を差しのべました。その功績から、いまでも「ド・ロさま」として敬愛されています。急な斜面に建つ大野教会の「ド・ロ壁」はいまも健在です。強い雨風に耐えて立つ姿は、信念を守りつづけてきた潜伏キリシタンと重なるものがあります。2018（平成30）年に世界遺産に指定された「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の象徴のひとつです。

そとめ
潜伏キリシタンの里 外海の集落



“長崎の遠か”とは、
甘みが足りないことの
言い回しでした。

九州北部を横断する長崎街道。砂糖はここを経て、上方へ、江戸へと運ばれました。「シュガーロード」と呼ばれる由縁です。

江戸時代、オランダはインドネシアから砂糖を運んできました。日本ではなかなか手に入らない砂糖は、とても貴重で高価なものでした。

砂糖の荷あげ地である長崎、この地の名物に甘いものが多いのは、贅沢なおもてなしのなごりです。

さて「長崎の遠か」とは「長崎が遠い」という意味。「長崎が遠い」ということは「砂糖が届いてない」ということ。つまり「甘みが足りない」ということ。それを美しく面白く表現した言葉なのですね。

長崎街道はシュガーロード



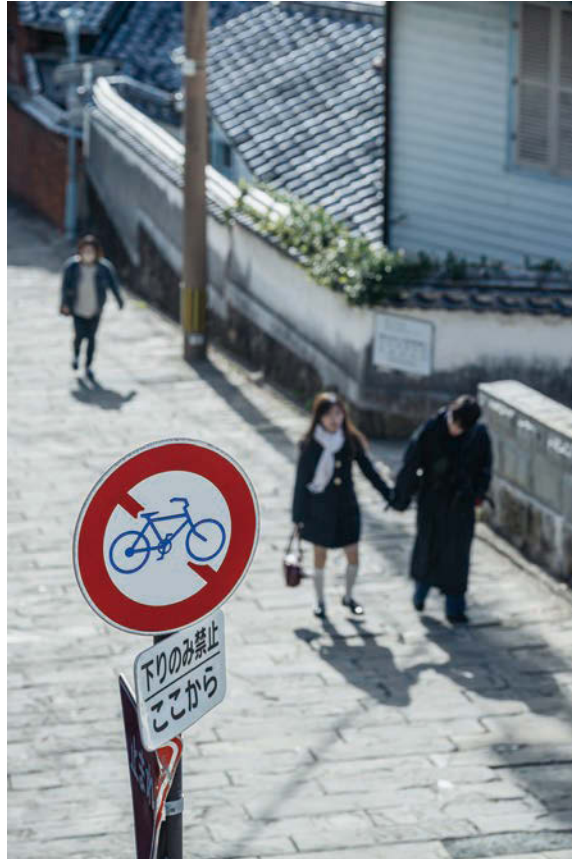
皿うどんの“味変”は
ウスターソースで。
いちど食べたらくせになります。

長崎人のソウルフード、皿うどん。いまでは全国区の知名度と人気ですが。じつは、え!?!と驚くご当地ルールがあります。

3人前、4人前と大人数で出前にすると、人数分が一皿に盛られて届きます。そこに添えられているのは、どこかで見たフォルムの…あの栄養ドリンクの小瓶です。中の液体はまぎれもないウスターソースでした。

あんかけの味付けに、酢や紅ショウガという向きもありますが。本場の皿うどんはダンゼン、ウスターソースの一択。何口か食べたあと、チョロツとかける。甘いあんにスパイシーな“味変”が意外にいける。ぜひ、試してみてください。

出前はソースが小瓶入り 皿うどん



こんな急坂ばかりじゃ、
自転車に乗れない人が
多いのもわかりますね。

通称オランダ坂通り。この坂に、ほかでは見ることのない標識があります。「自転車通行止め」、それも「下りのみ禁止」との注意書き。

いやいやこんな急坂、電動アシストを使っても上れないよ、と思われそうですが…

長崎人は自転車に乗れない人が多いとか。家の前が急坂や階段道だと、自転車の出番がない。自転車登校が禁止されている学校も。いかにも傾斜地に生活の場が広がった、長崎ならではのエピソードですね。

きょうも、名門野球部の生徒たちが、自転車が通らない急坂を坂道ダッシュしています。足腰を鍛えるにはうってつけです。

家も学校も斜面地



制服、スーツ、エプロン、 そして観光客も行きかう、 エレベーターの市道です

「おはようございます」「いってらっしゃい」「おかえりなさい」。元気なあいさつが聞こえてきます。

ここは「グラバースカイロード」。斜面地の快適な移動のためにつくられた、ほかの町では見ない斜行エレベーターです。実は、このエレベーターは公共の市道。ですから、住民だけではなく、観光で訪れる人たちの足としても重宝されています。あ、もちろん無料です。

傾斜角 31 度、長さは 160 メートル。通称“ 相生の地獄坂 ”と呼ばれる急坂の横を、スムーズに上り下りします。エレベーターの最上階は、あのグラバー園のすぐ近く。さらには、エレベーターの窓からは長崎の街や港を一望でき、新しい名所となっているようです。

誰でも無料 グラバースカイロード



名前は「ハトシ」です。
エビをはさんだトースト、
という意味です。

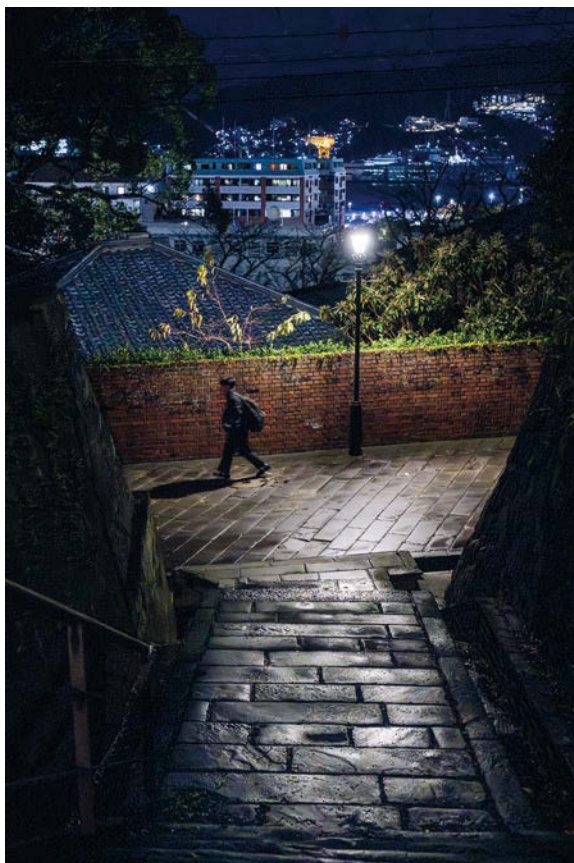
明治時代に清国からやってきました。中国語にすると「蝦多士」。蝦（ハー）はエビ、多士（トーシー）は焼いた食パン。その名のとおり、エビのすり身を食パンにはさみ、それを油であげたものです。

昔は長崎名物の卓袱（しっぽく）料理の一品でしたが、その美味しさ、そして手軽につまめる楽しさから、独立した食べものとして愛されるようになりました。

いまでは、料理店や食品店の店先に並んでいたり、お祭りなどのイベントでは屋台が出ることも。片手に持って食べ歩く若者たちを見ると、まさにご当地ファストフード。

おむすびやサンドイッチなど、ワンハンドフードのバリエーションはどんどん多彩になっています。ブームのひと足前に、現地のハトシはいかがでしょうか。

大人気のローカルフード ハトシ



「雨」「港」「坂」「丘」、
長崎を歩くと、つい
口ずさむ歌があります。

祖母は「長崎の港」、母は「長崎の坂」、わたしは「長崎の丘」。

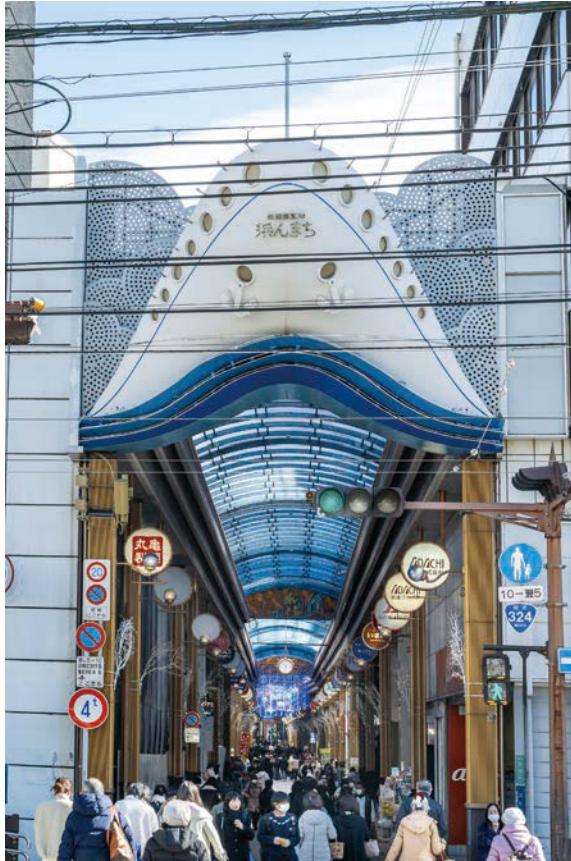
それぞれが、それぞれに、この町をイメージする歌があります。

長崎出身の歌手やグループやアーティストは、世代を超えてたくさんいます。いや、それにもまして、この街が
つちかってきた歴史や文化や風景が、美しいストーリーを描くのうってつけの場所だというのが、長崎の歌が
たくさん生まれた理由なのでしょうね。

ほら、きっとあなたにも、思わず口ずさむ歌があるでしょう。

その歌のモチーフになったその場所を、いちど訪れてみませんか。

それぞれの世代に、長崎の歌



銀ぶらではなく浜ぶら。
人どおり賑やかな浜町商店街は、
国道 324 号です。

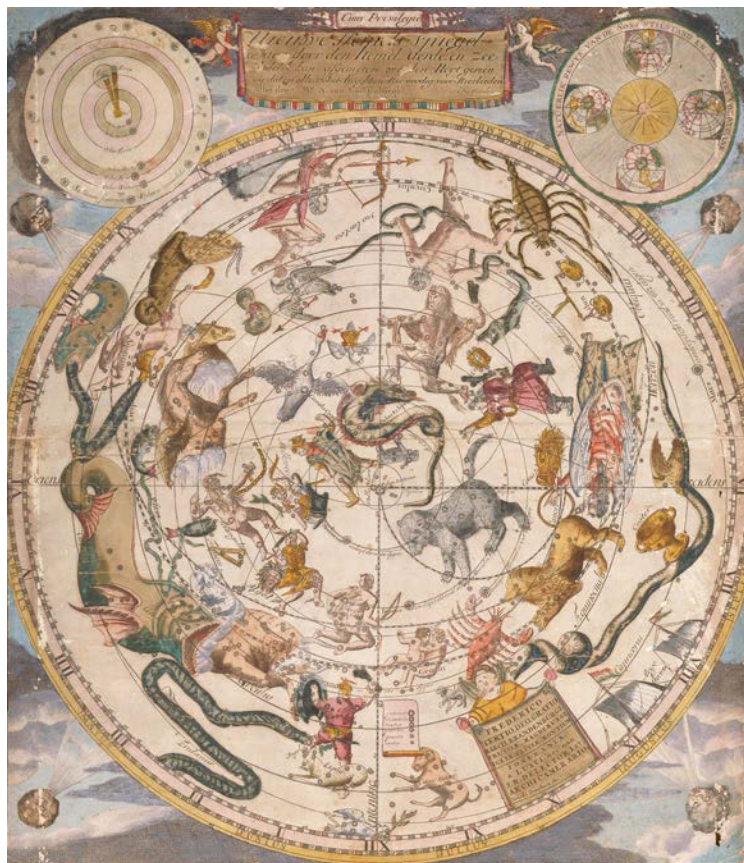
浜町と書いて「はまなまち」。長崎人がその名を呼ぶとき、市街いちばんの繁華街としての愛情と誇りを感じます。約 700 軒の店が集まる商店街。買い物も、そぞろ歩きも、「浜ぶら」は楽しい。たとえ雨の日でも、日ざしの強い日も大丈夫。メインストリートはアーケードです。

アーケード入口の右手にふと目をやると、「国道 324」の道路標識が…

え、アーケード商店街が国道!? 安心して歩いてください。たとえ国道でも、朝 10 時から翌日明け方の 5 時までは、歩行者専用道路になっています。

国道アーケードの「はまなまち」で「浜ぶら」を。ほかではできない体験です。

クルマ通行禁止のアーケード国道



星座図（長崎歴史文化博物館収蔵）

惑星は、 長崎で誕生しました。

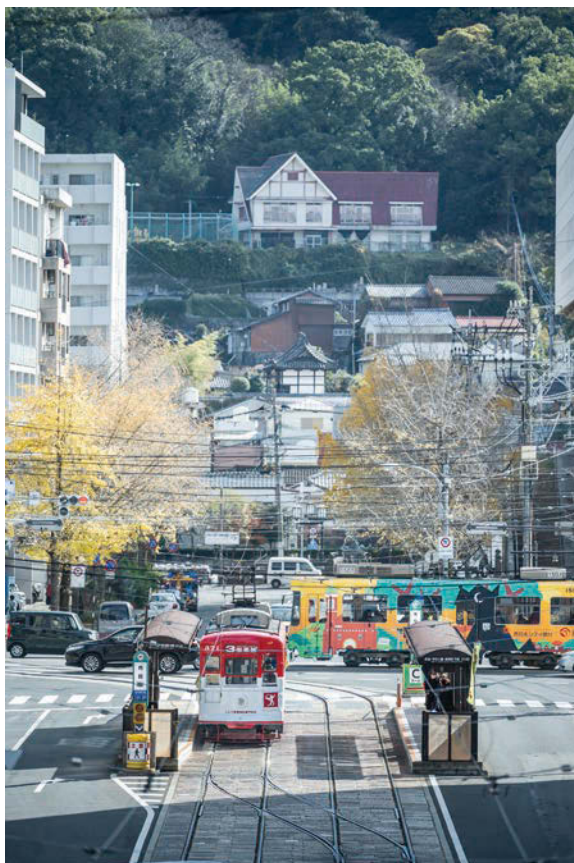
出島が西洋との唯一の窓口であった時代。阿蘭陀通詞（おらんだつうじ）は単なる通訳ではなく、西洋の医学、物理学、天文学などに精通したサイエンティストでもありました。

コペルニクスが唱えた地動説を初めて日本に紹介したのも、阿蘭陀通詞の本木良永です。天文学のスペシャリストだった本木家には、写真の図版『本木旧蔵新天球図』がずっと大切に保存されていました。

さて、地動説を紹介した本木良永の、もうひとつの功績。それは、「惑星」という言葉を生み出したこと。天空において、あっちへこっちへと動く天体を、“惑える星”という日本語にしたのは、まさに名訳ですね。

あちこちに近代科学の礎を見つけることができるのも、長崎の魅力です。

西洋科学の窓口 おらんだつうじ 阿蘭陀通詞



つぎはなに色の 電車がくるかなあ。

「あー、オレンジ色だった」「ぼくの思ったとおりだ」。そんな子どもたちの声が聞こえてきます。

市内を走る長崎電気軌道。いわゆる「ちんちん電車」です。1915(大正4)年に開通してからもう100年以上、市民の足として愛されてきました。各地の路面電車が廃止や縮小するなか、長崎の「ちんちん電車」はずっと元気に走っています。

その理由のひとつが、日本初の「カラー電車」。1964(昭和39)年、車体の全面をスポンサーのために塗装した電車が登場。その広告収入を活かすなどの工夫で安い運賃を維持。いまでも市民に観光客に、なくてはならない交通手段です。

電停で待ちながら、子どもたちといっしょに、つぎの電車の色を予想してみませんか。

カラー電車の元祖 ちんちん電車



長崎フォトフェスティバル 2022 より 写真提供：三姉妹ママ

ご褒美のアイスは、
 コンビニやお菓子屋には
 ありませんでした。

屋台の氷菓
 ちりんちりんアイス

運動会がんばったね。発表会よかったよ。成績あがったじゃない。そんなときの楽しみが、「ちりんちりんアイス」。
 “ちりんちりん”と鐘を鳴らして街を巡る屋台を長崎で育った大人たちはみな、懐かしく覚えています。
 いまも市街のあちこちで、水色のパラソルを目にします。「ひとつください」とお願いすると、コーンの上にバラの花びらの
 ようにアイスが盛られていく。その様子にわくわく。子どもたちははしゃいでいます。
 親から子へ、子から孫へ。「ちりんちりんアイス」は、とても身近でとても特別な存在なのですね。



長崎フォトフェスティバル 2019 より 写真提供：原田 歩

捕鯨船に
 乗ってきた4羽から、
 いまでは世界に誇る、
 ペンギンの水族館に
 なりました。

世界一の種類
 長崎ペンギン水族館

ペンギンばっかりの水族館、ちょっとびっくりしますよね。
 「長崎ペンギン水族館」では、地球上に生息する18種類の半分、9種類のペンギンを飼育。
 それは世界にも類がありません。
 なんで、長崎でペンギン？ その由縁は1959(昭和34)年、捕鯨船が4羽のペンギンを連れて長崎に戻ってきたことから。
 水族館ではペンギンの飼育と繁殖を磨き、引きつがれ、いまでは水族館のペンギンの7割が、ここで生まれたとのこと。
 まるで幼児のように直立歩行する姿、まるで回遊魚のようにスマートに泳ぐ姿。
 どちらのペンギンに、あなたは癒やされますか。



長崎フォトフェスティバル 2020 より
写真提供：竹野 大志 (@take.nagasaki)

長い長い年月をかけて、
波がかじっていった、
りんごです。

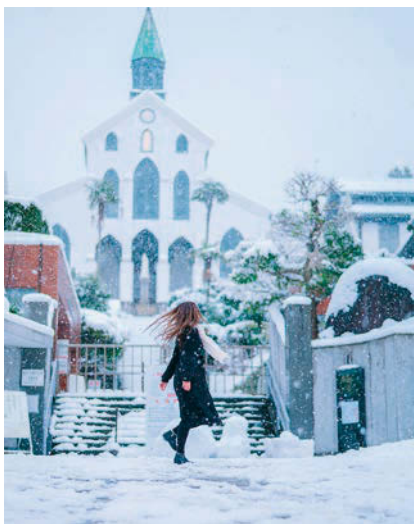
「りんご岩」のサンセット

長崎県の海岸線の総延長は約 4,166km。これはなんと、日本の海岸線の約 12%にあたるのか。複雑な入り江が多い地形。それだけに、個性あふれる海岸模様を見ることができます。

ここも一例、長崎市かきどまり白浜の「傘岩」。いやそれよりも、かじったりりんごのカタチをイメージした、「りんご岩」という通称のほうが知られているかもしれません。

おおよそ 500 万年前の火山噴火で生まれた岩が、波で浸食されて、いまではこの姿になりました。

この海岸は、絶好のサンセットのスポット。夕日のシルエットには、ほんと“りんご”だ！ という声があがります。



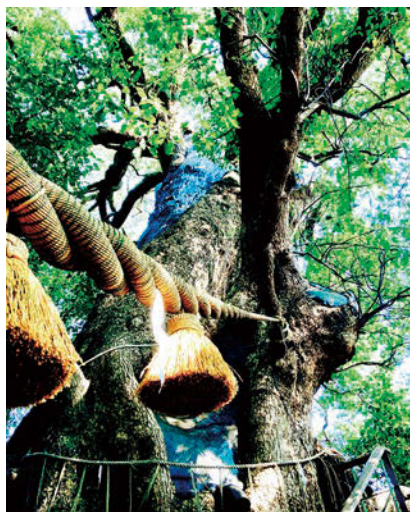
長崎フォトフェスティバル 2022 より 写真提供：しんしゃ・uka

あ～ああ～、長崎は
今日は雪だった

雪の日の天主堂

年に数日だけのことです。温暖なイメージの九州ですが、そんな長崎にも雪は降ります。冬型の気圧配置が強烈になったとき、対馬海峡を渡ってきた雲が雪をもたらします。深くまで積もることはめったにありません。が、もし積もろうものなら…急な坂道ばかりで、雪に慣れていない人たち。ちょっとてんでこまいになったりもしますが。

教会、異人館、波止場、おなじみの風景が雪で化粧している姿は、なかなか見られるものではありません。もしこのタイミングに出会ったら、ずっと思い出に残りそうです。あ、それにもうひとつ。きっと、あつあつのチャンポンがひときわ美味しいかも、ですね。



長崎フォトフェスティバル 2022 より 写真提供：na.talie3577

あの歌にもなった
クスノキは、
折れない、くじけないことの
大切さを教えてくれます。

山王神社の被爆クスノキ

原子爆弾が投下されてから2年後、このクスノキは見事によみがえりました。
熱と爆風で、幹には亀裂が入り、枝葉は燃え散りました。500～600年を生きてきた命は枯死寸前に。しかしクスノキは、
奇跡的に新しい芽をふき、いまでは青々とした見事な巨樹としての姿をよみがえらせています。
「被爆クスノキ」は、戦後に立ちあがる長崎人の心の支えになりました。そしていまでも、生きること、あきらめないことの
大切さを教えてくれます。
人気アーティストのあの歌で広く知られるようになったクスノキ。教科書の題材にもなったと聞きました。
山王神社の「被爆クスノキ」、きょうも多くの人が参拝に訪れています。



撮影協力：花火の立岩商店

「花火は一人500円まで
だからね」
花火の楽しみは、
買う時間から始まる。

花火屋さん

長崎市では、夏だけではなく、一年中花火が売られています。それどころか、爆竹が公然と売られ、3万円以上も「大人買い」する人たちも。中国文化の影響を受けた長崎では、お墓参りや精霊流しで花火を行い、爆竹を炸裂させる風習があるからです。これ、どんな色で、どんな形になるんだろう。子どもたちは、花火を1本ずつ手に取ります。
花火屋さんがある長崎では、花火は選ぶ楽しみから始まります。



季刊誌「楽」48号より

長崎の精霊流しは、 耳栓が必須アイテム。

精霊流し
毎年8月15日

お盆を迎えた先祖の御霊を送るために行われる精霊流しは、一般的に霊の乗り物である小さな舟を川や海に流して送る、しめやかな行事です。ところが長崎の精霊流しは、町中に爆竹が鳴り響きます。お墓参りの時に花火をしたり爆竹を鳴らす習慣がある唐人文化の影響を受けた長崎では、魔除けの意味を込めて爆竹を鳴らしながら、故人の趣味などに基づいて飾られた精霊船とともに初盆を迎えた家族が街中を練り歩きます。見物には、耳栓のご用意をお忘れなく。



撮影協力：いけ洲居酒屋 むつ五郎

白いのに、名前は 鉄火巻きなんです。

白鉄火巻き

鍛冶場で真っ赤に熱した鉄のような色をした赤身のまぐろを材料にしたから名付けられたとも言われる鉄火巻き。長崎市では、そんな名前に矛盾する白鉄火巻きが存在します。材料は白身のハマチやブリ、ヒラス（ヒラマサ）。海に囲まれた長崎は新鮮なお魚が豊かで、身が締まった食感はプリプリ、コリコリ。ねっとりとした食感のマグロに新鮮さを感じなかったからと言われています。長崎に来たら、ちょっと不思議な白鉄火巻きをごひいきに。



季刊誌「楽」2号より

8月9日11時02分。
市民はどこにいても
黙祷を捧げる。

平和祈念像 / 原爆資料館

1945年8月9日午前11時02分。広島への原爆投下から3日後、この平和祈念像から約500m南側の上空で原子爆弾が炸裂。約15万人もの人々が死傷しました。平和祈念像は、長崎出身の彫刻家、北村西望氏によって制作されました。天を指した右手は“原爆の脅威”を、水平に伸ばした左手は“平和”を、軽く閉じた臉は“原爆犠牲者の冥福を祈る”という想いが込められています。原爆資料館では、被爆の惨状だけでなく、投下の経緯、核兵器開発の歴史、そして核兵器のない平和希求が展示されています。原爆資料館に入ると書いてある言葉「長崎を最後の被爆地に」。その願いを込めて、その日、その時、市民は黙祷を捧げます。私たちは今もなお、人間が起こす戦争という悲劇に向き合う時間が必要です。



© 福島啓和

終着駅は、
新幹線をゆっくり
撮影できる
フォトスポットでもある。

西九州新幹線 長崎駅

端まで行ける設計になっている長崎駅のプラットフォームを歩いて行くと、潮風を感じます。眼前に広がるのは、長崎市の歴史を作ってきた長崎港。そして振り向けば、新幹線が停車したまま。数少ない新幹線の終着駅、長崎駅は新幹線が次の発車時刻まで滞在します。つまりここは、西九州新幹線「かもめ」をゆっくりと撮影できるフォトスポット。駅に降り立った瞬間から、長崎の旅が始まります。



撮影協力：かにや本店

呑んだ後、
「べに行くぞ」と
連れて来られたのは
おにぎり屋さんでした。

おにぎり屋さん

長崎市にはおいしいおにぎり屋さんが根付いています。お昼に定食として提供したり、テイクアウト専門だったり。珍しいのは、べのおにぎり。呑んだ後におにぎりなんて、もうお腹いっぱいでは食べられない。そう思っている中にも、中には30種類も揃えている店もあるおにぎりを選んでみると、つい3個くらい頼んでしまいます。ついでおつまみも頼んで、結局お酒も頼んで、はしご酒になっている。それもまた長崎らしさです。



季刊誌「楽」48号より

ペーロンは、
見るより漕ぐほうが
楽しいに決まってる。

ペーロン大会 / ペーロン体験

毎年7月最終土・日曜
(6月から市内各地で地区大会)

毎年7月最後の土日に開催される、長崎ペーロン選手権大会。5・6年に一度は新調される舟の材質は杉で、長さは約14メートル。この日のために練習を積んだ26名以内の漕ぎ手が太鼓とドラを響かせて、往復1,150mを競漕します。在留唐人たちによって初めて長崎港で行われたのは1655年。江戸時代には町対抗で競漕を行う現在の大会の原型ができましたが、あまりの熱狂で揉め事が絶えず、禁止令が出されたほど。職域の部、中学生の部、女性の部が行われる土曜日と、6月から各地で行われる地区大会を勝ち抜いた各地区の選抜チームがNo.1を決める日曜日は朝から夕方までペーロン一色。観るのもいいけど乗ってみたいあなたには、大会中に体験ペーロンがありますよ。



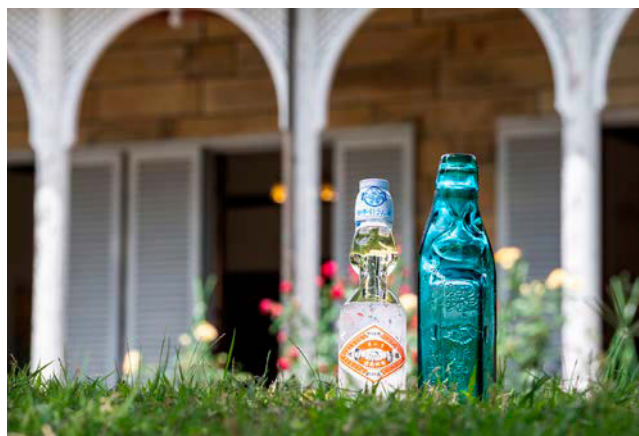
本州で最も西に位置する
長崎ですから、
海岸線はだいたい
夕日鑑賞スポットです。

外海の夕日

市街地から国道 202 号線を北へ向かうと、やがて外海（そとめ）という、禁教時代にキリスト教徒が潜伏していた集落に到着します。外海は文字通り、外に海を臨む海岸線が続きます。

考えてみれば日本の最も西に位置する長崎は、海に夕日が落ちる絶景スポットの連続。

遠藤周作の小説「沈黙」の舞台となったこの地で、禁教時代以前に長崎市と同じくヨーロッパの最西端、ポルトガルから来た宣教師も、故郷の夕日を重ね合わせたことでしょう。



撮影協力：古田勝吉商店・南山手レストハウス

ボウリングも
ラムネもミルクセーキも。
そこらじゅう、
日本初だらけです。

伝来 & 発祥の地

長崎市内には、たくさんの石碑が建っています。屋敷の跡地などはもちろんですが、「○○発祥の地」という碑が多いのです。貿易が盛んだった長崎では、国外からもたらされたものが多く、正確に言えば「伝来の地」というモノも含め、「日本初」であふれています。じゃがいも、たまねぎ、スイカ、コーヒーといった食べものから、ビリヤード、缶詰、写真機、じゃんけん、コンクリート住宅、電話にラクダまで。

さまざまなものが上陸した長崎で、初モノを探してみるのも観光の楽しみです。



季刊誌「楽」37号より

おくんちは、
毎年が7年に1度です。

長崎くんち

毎年10月7日～9日（本番）

練習風景見物 6月～9月

長崎くんちでは、その年に奉納踊を披露する当番の町を踊町と言い、7年に1度、主役となる当番年だけに披露される特別な演し物（だしもの）があります。

長崎くんちの写真としてよく見る、中国文化を取り入れた演し物、龍踊り（じゃおどり）が、踊られない年だってあるのです。練習が始まる6月から、本番に向けて仕上げの時期を迎える9月、そして10月の本番まで、毎年が7年に1度しか見られない長崎です。



季刊誌「楽」55号より

長崎はバスの運転が
うまいと言われます。
うまくなきゃ、
つとまりませんから。

狭隘路線バス

港の周囲を山で囲まれている長崎市は、造船業が盛んになるにつれ、人口増加によって山の上へ上へと住宅が増えて行きました。道路もまた、山の上へと伸びて行きました。

しかしながら、多くの住宅が建つ斜面に新しい道路を作ることは難しく、今も乗用車がすれ違うのがやっとの、狭く、曲がりくねった道が日常。そんな道を大型の路線バスが当然のように行き交います。

「長崎はバスの運転がうまい」と言われるのは、この道に鍛えられたおかげです。



本当の中国よりも、
中国っぽいらしい。

長崎
 ランタンフェスティバル
 毎年旧暦の1月1日～1月15日

もはや芸術に近い大きなランタンオブジェをはじめとして、約 15,000 個のランタンが市内を彩る冬の長崎は街中がフォトスポット。毎年 100 万人以上が訪れるフェスティバルでは、ランタンだけでなく、中国衣装をまとった「皇帝パレード」や二胡の演奏、変面、中国雑伎など、中国の人から見ても現代の中国にはない、古き良き中国らしさが残ります。子どもが楽しめる手作りランタン体験や、願いが叶うと言われるロウソク祈願四堂巡りも人気。熱々の、角煮まん、ハトシ、マーラーカオも楽しみの一つです。



撮影協力：ふぐ割烹 新富

都心で食べても、
漁港で食べても、
同じとらふぐ。

戸石とらふぐ・かき祭り
 毎年 11 月末～ 12 月半ば
 (かき焼きは 3 月末頃までの
 毎週土日祝日に開催)

市の中心部から東へ 10 キロちょっと。

戸石町は長崎市を代表する漁港の一つがあり、養殖業が盛んです。とらふぐ、かき、鯛、しまあじなどが養殖され、全国各地へと出荷されます。毎年 11 月末から行われる、戸石とらふぐ・かき祭りは、菌ごたえ十分のとらふぐと、ぶりっぷりのかきを堪能できるチャンス。驚くのはその価格。都心の高級店で食べたらウン万円はすると思われるクオリティの料理が、信じられないような値段で楽しめるのです。戸石で食べたら、もう他の場所には戻れません。

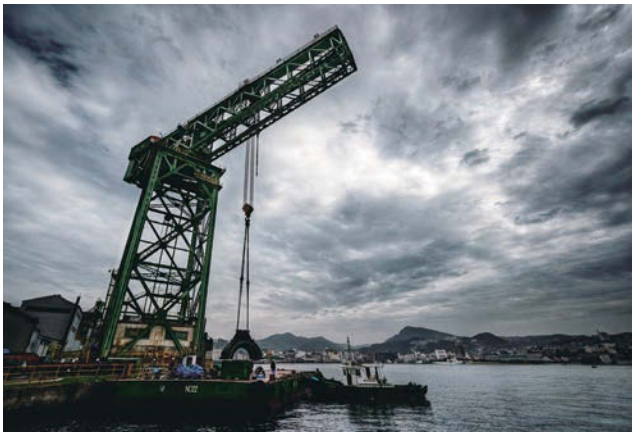


季刊誌「楽」55号より

猫も、異人さん。

尾曲がり猫

日本に生息する猫のしっぽの形は、古来から、真っ直ぐ長いのが一般的です。でも長崎にいる猫の約8割は先端が曲がっているか、短いか、お団子のような形。長崎で「尾曲がり猫」と呼ばれる猫は、特にインドネシアに多く生息しています。江戸時代、ヨーロッパとの貿易を担う東インド会社のアジア支店があったのがインドネシア。当時の船は木造で、積荷を食べたり、船体をかじったりするネズミを駆除するために船に乗せていた猫が、日本に住みついたと考えられています。長崎市は文化や人だけでなく、猫まで世界から訪れていたんですね。旅の途中で猫に会ったら、しっぽに注目です。



季刊誌「楽」27号より

ジャイアント・
カンチレバークレーン。
プロレス技の名前では
ありません。

ジャイアント・
カンチレバークレーン

2022年で御年113歳。高さ62m、アーム部の長さ75mの巨大クレーンは、1909年の竣工後、戦火に見舞われ、日々海風にさらされる過酷な環境下でも、今なお現役。三菱重工業長崎造船所内で製造される大型のタービンなどを船に積み込むために、月に10日ほど稼働しています。その姿は輸出したスコットランドが賞賛するほど歴史的にも貴重な存在。安全上陸上からは非公開ですが、グラバー園や軍艦島クルーズ、遊覧船の船上から、長崎の近代工業を支え続けるその勇壮な姿を近くで眺めることができます。



撮影協力：長崎市恐竜博物館

恐竜という
日本語をつくったのは、
長崎の人です。

長崎市恐竜博物館

19世紀に、Dinosaurと名付けられたこの生物を、龍になぞらえて日本語訳したのは、長崎出身の古生物学者、横山又次郎でした。それから120年余り。野母崎にある長崎市恐竜博物館には、オランダにある世界最大級のティラノサウルスの化石を忠実に複製した全身骨格標本レプリカが世界で唯一、展示されています。



夕日を見たいか。
夜景を見たいか。
港を見たいか。
3つの山から景色が
選べます。

稲佐山・鍋冠山・風頭公園

世界新三大夜景に認定されている、長崎市の夜景。周囲を山に囲まれているため、いろんな場所から眺められます。女神大橋の向こうの島々に落ちる夕日を眺めるなら鍋冠山。港を中心とした長崎市の全景を見渡すなら稲佐山。街の光を中心に、春には夜桜もいっしょに楽しめる風頭公園。お好みに合わせて選ぶのもいいけれど、せっかく来たならすべて登って見比べるのもいいですよ。



撮影協力：ツル茶ん

洋食と和食と
中華料理が1つの皿に。
長崎では皿の上でも
文化交流するんですね。

トルコライス

名前にトルコとついていますが、トルコライスはトルコ料理ではありません。
その由来には諸説あるのですが、中華のピラフ、和食のとんかつ、洋食のスパゲッティが1つのお皿に盛られていることから、東西文化の交わるトルコのように、トルコライスの名がついたと言われています。
さまざまな文化が交わってできた長崎の名物料理になったのは偶然ではないのかもしれないですね。



季刊誌「楽」36号より

もらった1粒の種を、
庭にまいた。
日本最大の産地になった。

長崎びわ

江戸時代の終わり。代官屋敷で働いていた三浦シヲという女性が、唐人（もしくは唐通事〔中国語通訳〕）からもらった1粒のびわの種。自宅の庭にまいたところ、長崎の海に囲まれた温暖な気候が幸いし、実った果実は大きく、おいしさもすぐれていました。長崎は今では全国の生産量の30%以上を占める「びわ王国」。近年、より甘く、実の大きい新たな品種も加わって日本中に出荷されています。長崎土産はカステラもいいですが、長崎通はびわゼリーを選ぶんですよ。



干潮の時だけ
渡れる島って、
どうして渡りたく
なるんですかね。

野母崎 田ノ子島

バスや車で、市内から国道 499 号線を海岸線に沿って南西へと走る。
軍艦島がまさしく軍艦のような姿に見えてくる頃、小さな島が現れます。
恐竜博物館の沖に浮かぶ田ノ子島は、大潮の干潮時には陸続きになる小島です。その珍しさから、二人で渡ると想いが叶う、縁結びの島として知られています。海の水が残ってできた潮だまりに残された小魚やウニと戯れたり、おいしい海鮮を食べたりしているうちに、見事な夕日が海に落ちていく。
海に囲まれてゆったりと過ごす時間は、けれどもあっという間に過ぎていきます。



こんなに有名なのは、
見た目だけが
理由ではありません。

中島川にかかる石橋

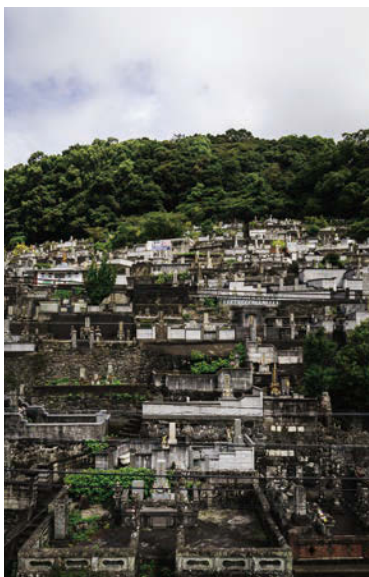
眼鏡橋の隣には、橋を設計した中国の人の銅像が立っています。めがね橋は、当時の日本人にはまだできなかった最先端技術で造られた日本初のアーチ式石橋です。有名なのは、川面に映るめがね姿だけが理由ではないのです。中島川には 17 世紀以降、17 ～ 18 の石橋がかけられました。めがね橋から川沿いを上流へ歩けば、今もたくさんの石橋に出会えます。



ふだんの自分なら
入らないようなお店が
長崎では
名店だったりする。

市民が通う隠れた名店

どこへ行っても同じチェーン店ばかりを見かけるようになった世の中で、長崎市はまだまだ個性豊かな個人店が多く存在しています。それは、ちゃんぽん、皿うどんを初めとする郷土料理だけではなく。表では鮮魚を売っているのに、奥に入ると定食を食べられる魚屋。種類も豊富でとっても新鮮なのに信じられない安さの回転寿司。座ればお店の人や隣のお客さんが話しかけてくれる気さくな居酒屋。地元の人たちが通うお店にこそ、長崎の食の神髄があります。



金文字、花火、献杯。
すべてお墓の風習です。

賑やかな墓

長崎のお墓にまつわる風習は独特。まず墓石の文字が金色。墓前に供えるのは長い竹製のお線香「竹線香」。お盆のお墓参りは夕方から夜にかけて行い、墓前で花火をします。それも「矢火矢(やびや)」と呼ばれるロケット花火。さらには故人を偲んで墓前でお酒を酌み交わす。すべて中国から伝わった、故人に対する風習です。先祖の霊を光で導き、音で邪気を払い、賑やかにともに過ごす。そんな意味があるそうです。観光では立ち寄りづらい場所ですが、近くを通ったら気にしてみてください。墓前には、家族が過ごすちょっとしたスペースがあるのに気づきますよ。



キッコリ、アラカブ、
 エタリ、ヤー。
 さて今夜は刺身にするか、
 煮物で食べるか。

250 種の魚

長崎港が面する東シナ海は多くの回遊魚が集まるため「魚のゆりかご」といわれ、水揚げされる魚種は全国一の250種以上、水揚げ量は全国3位を誇ります。グラバーの息子、倉場富三郎はたくさんの珍しい魚を見て、長崎在住の5人の日本画家に総数801枚の魚の絵を描いてもらい、魚の図鑑である魚類図譜を編纂したほど。市内にある、見たことも聞いたこともない魚が食べられる居酒屋や料理店を訪れて、どんな味がするのかを試すのも長崎市の楽しみです。



長崎には、
 お酒を楽しみながら
 道路の真ん中を走れる
 夏があります。

納涼ビール電車・ おでん電車

納涼ビール電車 7～8月
 おでん電車 2～3月
 (※完全予約制)

長崎市民の足として市内の主要ルートを結ぶ市内電車。どこまで行っても均一料金なので、旅の交通手段としても重宝します。納涼ビール電車は、毎年7～8月だけ運行される長崎の夏の風物詩。冬には長崎おでんで暖まる、おでん電車も運行されます。普段はお酒を楽しみながら通ることのできない道の真ん中を、ぐらりと一周、1時間半かけてゆっくりと走ります。市内電車から見える景色は、長崎らしさそのものです。



上は東洋、下は西洋。

桃カステラ

古くから、中国で不老長寿の果実として尊ばれていた桃。
長崎で三月三日のひな祭りの日に初節句のお祝いのお返し（いわゆる内祝い）として贈るのが「桃カステラ」です。
今では女の子自身の長寿や健康を祝って桃の節句である雛祭りに食べたり、結婚や出産といっためでたい日にも贈られています。上に乗るのは砂糖細工の桃、下はその甘さを考慮した甘さ控えめのカステラ生地。東洋のめでたさを、西洋のおいしきで支える長崎らしき全開の一品は、お土産にしてもとてもめでたいものですよ。



合戦で
糸が切れたハタは、
最初に拾った人が
次の持ち主。

ハタ揚げ

長崎では凧（たこ）のことを、ハタと呼びます。でも、他の地域と異なるのは名前だけではありません。ハタを自在に操って合戦をしかけ、自分のハタの糸で相手の糸を切って落とすのです。落とされたハタは、最初に拾えば次の持ち主というのがルール。以前は糸が切られたハタを目がけて、子供たちが殺到していました。オランダ船に乗ってインドネシアから伝わってきたと言われるハタは、赤青白の3色で美しい模様が描かれ、大きさも選べる飾りハタはお土産としても人気。ハタ揚げ大会は4月～5月上旬に、普段はハタ揚げ教室もあって誰でも楽しめます。



普及率10%の日本で、
軍艦島のテレビ普及率は、
ほぼ100%。

※ 1958 年当時

軍艦島

縦 160m × 横 480m の島に 5,000 人以上が住み、幼稚園、小中学校、病院のみならず、お寺や神社、映画館やパチンコ屋さんまであった、島というより一つの町。その町が当時のまま残された世界遺産が端島（はしま）、通称軍艦島。日本初の高層鉄筋コンクリート造アパートが建ち並び、鉱員は給料が高く、普及率 10% の日本ではほぼ 100% テレビを保有。炭鉱の最盛期にはニューヨークの 15 倍という世界一の人口密度でした。観光船に乗り、島に上陸すれば、今なお、かつての人々の暮らしが目に浮かぶ、あの頃のままでの情景が広がっています。



知れば知るほど、
龍馬の足跡だらけです。

坂本龍馬の足跡

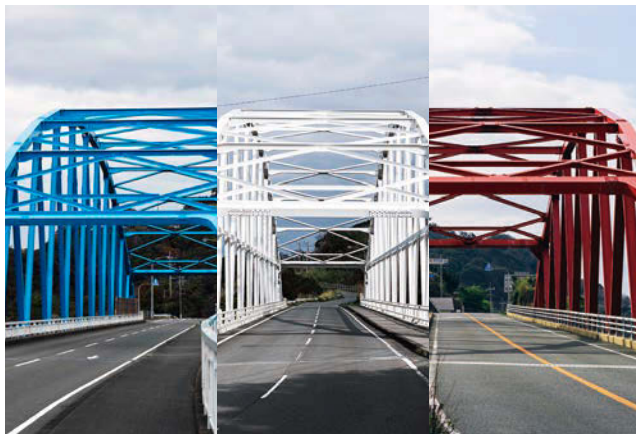
市内の坂本龍馬ゆかりの場所は風頭公園の銅像と日本初の商社、亀山社中が有名です。社中のすぐそばにある若宮神社は幕末の志士とともに龍馬がよくお参りしたとされ、ついに坂本龍馬神社が建立されて龍馬の御守りも手に入ります。そこから坂の町らしい風景を眺めながら社中の人々が行き交った龍馬通りを下れば、羽織袴にブーツを履いた写真を撮った上野彦馬の撮影局跡があります。また、市中にはいろは丸事件で談判が開かれた聖福寺や最初に滞在した小曽根邸跡、足を伸ばせば練習船や銃などを購入したグラバーが住んだ邸宅があります。夜は龍馬も訪れた史跡料亭花月で龍馬がつけたともいわれる柱の刀傷や直筆の嘆願書を見学。せっかく来たなら、史跡めぐりも龍馬らしく「行動あるのみ」ですね。



二人の神様が
いっしょに暮らす、
神ノ島。

神ノ島

今は陸続きの神ノ島は、かつては船でしか行き来できない周囲 1km ほどの島でした。島の南端に長崎港に突き出した小さな岬があります。離れた場所から見ると神社の鳥居が 2 つ、その先に 4.6m の大きなマリア像が見えます。でも岬へと向かい、鳥居のある階段を登ると、恵比寿様が鎮座しています。鯛を抱える恵比寿様は古くから豊漁の神様として祀られ、マリア像は 1949 年にフランシスコ＝ザビエル渡来 400 周年を記念して立てられました。まさしく「暮らしのそばに、ほら世界。」な二つの信仰の共演がここに 있습니다。



長崎とフランスの間に架
かる橋。

トリコロール橋

1879 年、潜伏キリシタンが禁教時代の苦難を乗り越えた外海地区に赴任したド・ロ神父。
神父のもつ建築・医学・産業などの幅広い知識を活かし、信徒のために私財を投じて出津と大野の 2 つの教会堂を建て、孤児院や助産院を設立。やせた土地でも実る小麦の栽培法や製麺技術を伝え、織物や印刷などの産業を興して教会を中心とした生活の場を整え、信徒の自立を支援しました。
そして神父の出身地であるフランス北西部、ヴォスロール村と外海の交流が始まり、姉妹都市となった外海に誕生したのが、フランス国旗のカラーに染められた 3 本の橋。それは、ド・ロ神父が贈ってくれたフランスとの架け橋です。

長崎で、
会いましょう。

暮らしのそばに、ほら世界。

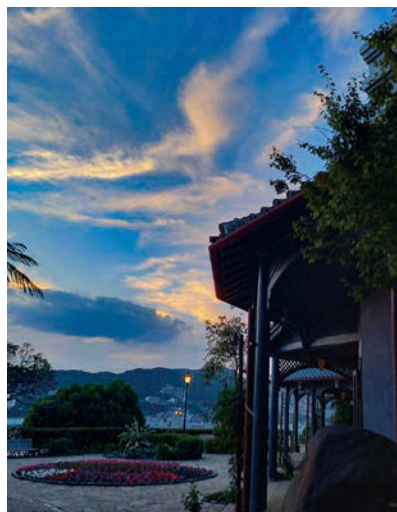


N A G A S A K I



門野 太稀 @tk_snap18さん

長崎市 長崎のもぎき恐竜パーク
水仙の丘



ひなたぼこさん

長崎市南山手町 グラバー邸



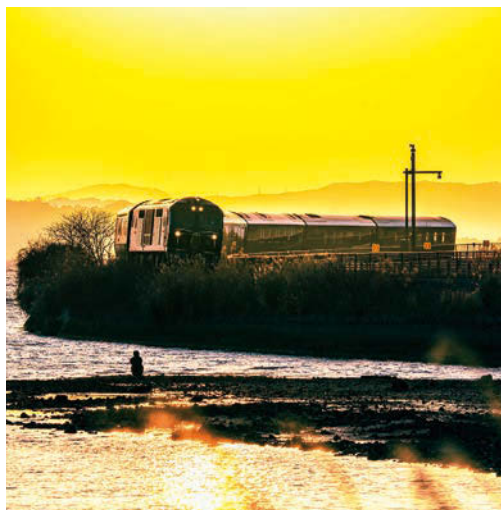
三姉妹ママさん

長崎市 眼鏡橋周辺



中尾 彰博さん

松浦市今福町 今福駅



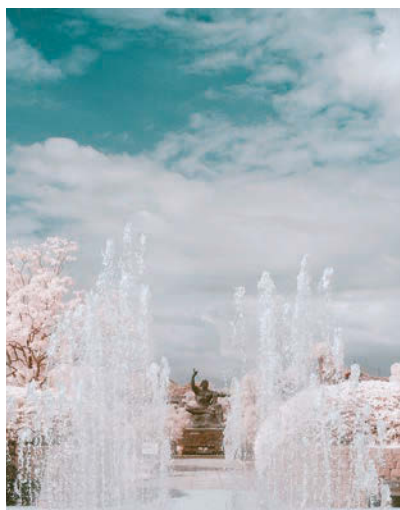
高江Takaeさん

大村市久原



na.talie3577さん

長崎市坂本2丁目 山王神社



じよろきあさん

長崎市 平和公園



Kataoka Genki(@genki_pics)さん

長崎市 長崎駅



nontaro(@nontaronon)さん

長崎市 夫婦岩



佐藤 可愛子さん

長崎ペンギン水族館



Katakago(@katakago_78)さん

長崎市湊公園



田尻 隆浩@takahiro.t8653さん

長崎市淵町 稲佐山公園



田村 幸成さん

長崎市南山手町 どんどん坂



nakanaka39さん

長崎市館内町 観音堂の入口



西川 裕子さん

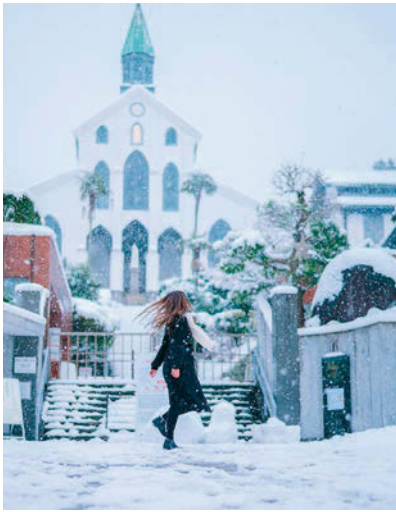
長崎市 魚の町魚市橋からの眼鏡橋



元尾 竜彦

(Instagram tatsuhiko _m_) さん

長崎市 長崎孔子廟



しんしゃ・ukaさん

長崎市 大浦天主堂前



みどりさん

西海市大瀬戸町 柳の浜海水浴場



中尾 彰博さん

松浦市星鹿町青島免



坂本 智一さん

東彼杵郡東彼杵町 千綿駅

長崎フォトフェスティバル

～ながさき写真 温故知新2022～

温故知新

100年に一度といわれる変化の時を迎える長崎。

新幹線開業や長崎駅前開発といった大きなまちの変化がある一方で、

長崎には開港以来築いてきた450年の歴史もあります。

変わるものと変わらないもの。

そのどちらも長崎ならではの魅力です。

そんないまこそ、伝えたい長崎の魅力を届ける一枚をお待ちしています。



茶々丸さん

長崎市 平和公園



KIM.Kさん

長崎市 常盤橋



藤本 宜志さん

長崎市内



飯山 皓平さん

島原市 武家屋敷



saku_39lineさん

長崎市松山町1



大濱 基弘さん

長崎市南山手 大浦天主堂前



原田 美香 (@_mikayan_) さん

諫早市 諫早自然干拓地フラワーズゾーン



中尾 彰博さん

松浦市今福町木場免 宮中献穀米田



西川 裕子さん

長崎市 風頭公園



吉谷 功輝さん

長崎市以下宿町付近 夫婦岩前駐車場



竹野 大志 (@take.nagasaki) さん

長崎市柿泊町 りんご岩



鈴木 浩子さん

東彼杵郡東彼杵町



川浪 義光さん

西海市崎戸町



村井 文明さん

長崎市琴海戸根町



rinda.0108さん

長崎市 稲佐山山頂展望台



山中 俊樹さん

長崎市 浜の町アーケード



Takahiro.t8653さん

長崎市住吉町



廣瀬 健司 (takeshigram) さん

五島市岐宿町岐宿239番地 巖立神社



高江Takaeさん

長崎市常盤町 水辺の森公園



samidare0314さん

長崎市 長崎県美術館

長崎フォトフェスティバル2020

Nagasaki Photo Festival 2020

見つけた！私の好きな長崎。

日々のあり方が、大きく変わった 2020 年。

でもそれは、日常を見つめ直す新しい発見の時間でもあったと思います。

そんな中であらためて気づいた

あなたの「好きな長崎」を写真で伝えてください。

それはきっと、これからの長崎に

元気を届ける一枚になるはずです。



山口 耕次さん

長崎市 浦上浄水場付近



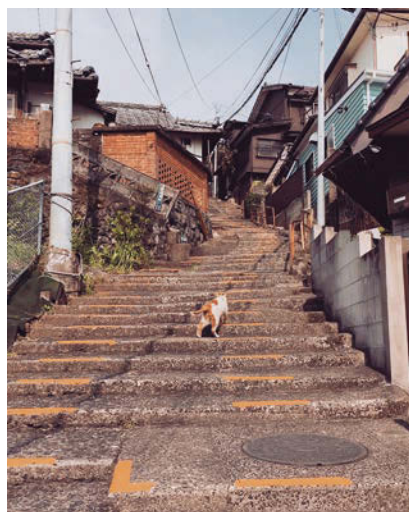
kazuyaさん

長崎市 長崎水辺の森公園



時枝 真哉さん

長崎市大浦町 オランダ坂



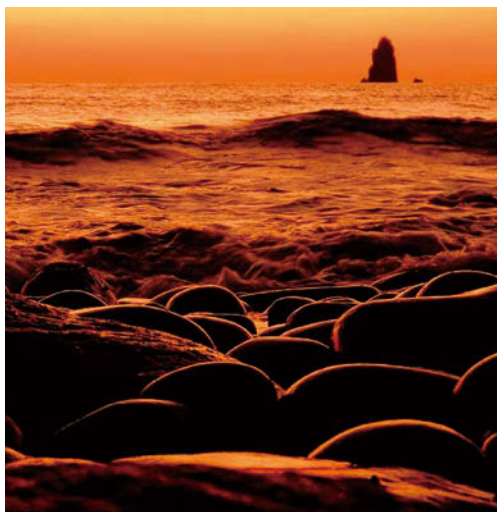
古賀 直樹さん

佐世保市金比良町



鎌田 智也さん

諫早市小長井町 フルーツバス停



松本 隆さん

長崎市 大野海浜公園駐車場近く



本多 和典さん

長崎市 眼鏡橋



原田 歩さん

長崎市 長崎ペンギン水族館



ゴンからの手紙さん

東彼杵郡東彼杵町 JR千綿駅



sumikafilm.photographyさん

長崎市 新地中華街



竹野 大志さん

長崎市 長崎水辺の森公園



西川 裕子さん

長崎市
国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館

優秀賞



河内 直哉 (@nk1226) さん

長崎市 稲佐山山頂展望台

優秀賞



坂本 智一さん

長崎市 グラバー園
旧三菱第二ドックハウス



浦川 智広さん

長崎市 眼鏡橋



川浪 義光さん

長崎市木鉢町IC付近

最優秀賞



富澤 涼花さん

長崎市 眼鏡橋

優秀賞



Satoshi Otsukaさん

長崎市 祈念坂

優秀賞



和-KAZU-さん

長崎市以下宿町

優秀賞



photo_shun(田中 俊)さん

長崎市 諏訪神社

長崎フォトフェスティバル2019

Nagasaki Photo Festival 2019

「これがわたしの長崎」

長崎という街は、住む人、訪れる人、一人ひとりに違う表情を見せてくれます。

それは、その人だけが思う「わたしの長崎」です。

ぜひ、あなたが思う「これがわたしの長崎」を教えてください。

題材は、長崎に関わるものならば、どんなものでも構いません。

一人ひとり違った長崎の姿が集まるとき、

そこから、あたらしい長崎がはじまります。

長崎県内で撮影された風景、街並み（橋・坂など）、人、食、
長崎の猫などを対象に、開催年毎にテーマを設定した
フォトコンテストを実施しております。

発行元：長崎市

制 作：一般社団法人 長崎国際観光コンベンション協会

暮らしのそばに、ほら世界。



2025年3月 発行

NAGASAKI PHOTO FESTIVAL

長崎フォトフェスティバル

2019

2020

2022